

かわら版



もりもと・泉沢小児童がコラボ 地元産ハスカップの良さをPR



老舗菓子メーカーのこだわりや名産のハスカップにかける思いなど、地域に根差した同社の活動を熱心に取材し、放課後には自宅に持ち帰るなど作業に没頭し約1週間で作成しました。作品は約2分間で、児童27人の熱い思いが伝わる作品に仕上がりました。

授業の中で、児童たちは「その土地ならではの良さをPRすること、地域の皆さんにより思い入れを持ってもらいたい」とする同社の商品開発にかける思いを改めて知るきっかけになりました。もともと千歳周辺に

1949(昭和24)年に千歳市で創業した菓子製造メーカー・もりもと(森本真司代表取締役社長)の地産地消への取り組みなどを紹介しようと、千歳市立泉沢小学校(早川久夫校長)の3年生児童が取材した内容をまとめた映像を、1月14日まで同社千歳本店で紹介しています。

同校3年生の授業の一環で、テーマは「お店で働く人びと」。昨年9月の授業開始から、地元

の来お客から好評を集めています。

自生していたハスカップを、どのように商品開発に生かし、地域活性化につなげるかといった老舗としてのプライドに理解を深めました。

(編集部 伊藤)

恵庭市内9局で「郵便局サンタ」年賀状投函の子どもにプレゼント

昨年12月15日の年賀状受付開始から25日まで、恵庭市内の9郵便局(簡易郵便局を除く)では、ポストに年賀状やはがき

を投函した子どもたちにクリスマスプレゼント(数量限定)を手渡す「郵便局サンタ2023」を実施しました。各郵便局

では祖父母や友達に手紙を送る子どもたちの笑顔が広がっていました。

12月21日には、認定子ども園クラーク幼稚園(住吉町3、秋元仁園長)の年長児3クラスの約80人が恵庭郵便局を訪問。園児たちは送る相手への思いを込めた郵便物をポストに投函し、「無事に届くといいな」などと歓声を上げていました。また、日本郵便のオリジナルキャラクター「ぼすく



小さな子どもたちに年賀状や手紙の文化に触れてもらおうと、昨年から企画したものです。今年も9郵便局近隣にある幼稚園や保育園に参加を呼び掛けたところ、約600人の園児たちが参加しまし

た。「ポストに年賀状を入れたよ」と局員に伝えらると、50円相当の駄菓子と、恵庭市在住のイラストレーター・かきはらひとみさんが描いたイラスト入りポストカードをプレゼントする内容です。

秋元園長は「日本の文化に触れる良い機会。年長児が文字への関心を持つ時期でもあり、ちょうど良い貴重な体験となりました。出す相手への思いも込めて園児たちが準備したものです」と笑顔を見せました。市内ではほかにも、認定子ども園かしわ幼稚園の園児たちが恵庭柏木中通郵便局を訪れるなど、各郵便局でほほ笑ましい光景が見られました。

(編集部 伊藤)

フォトギャラリー Photo Gallery 年末チャリティーカラオケフェスティバル

千歳市民におなじみとなった「第5回チャリティーカラオケフェスティバル」が昨年12月17日に北ガス文化ホールで開かれました。昭和歌謡から最新のポップスまで、出演者の個性が光る歌声ときらびやかな衣装で、会場を大いに盛り上げました。イベント収入の一部は千歳市教育基金として寄付されています。



千歳市子ども会育成連合会「レッツゴー!ライダーキック」



千歳圏人会愛知県支部「宇宙のファンタジー」



千歳北陽高校「また会う日まで」



千歳市商店街振興組合連合会「忘れているのー愛の幕切れ」



千歳青少年教育財団「ダンスホール」



札幌南法人会千歳支部「まつり」



千歳圏人会「ウナ・セラ・ディ東京」



千歳地方食品衛生協会「ボヘミアン」